



令和8（2026）年度



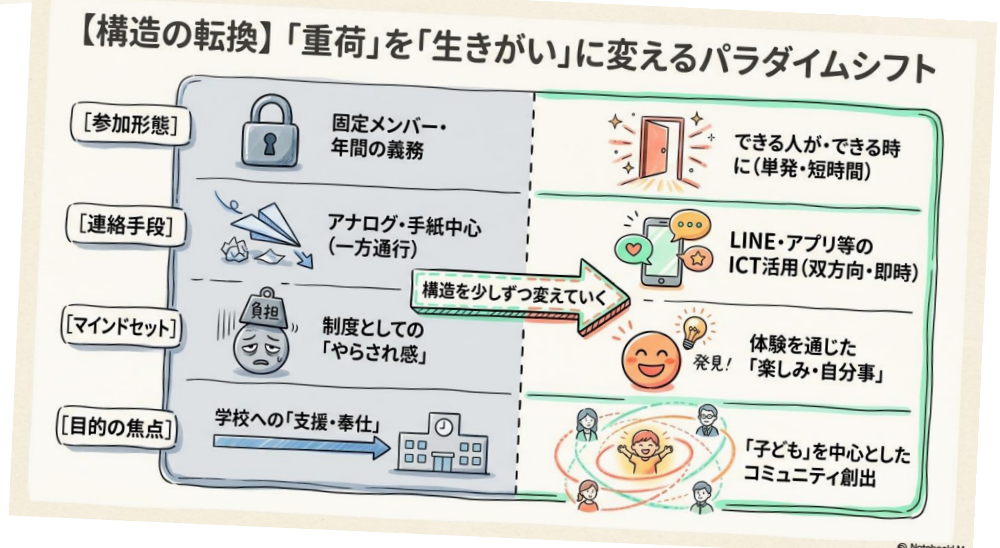
# 塩尻市コミュニティ・スクール ナビゲーター

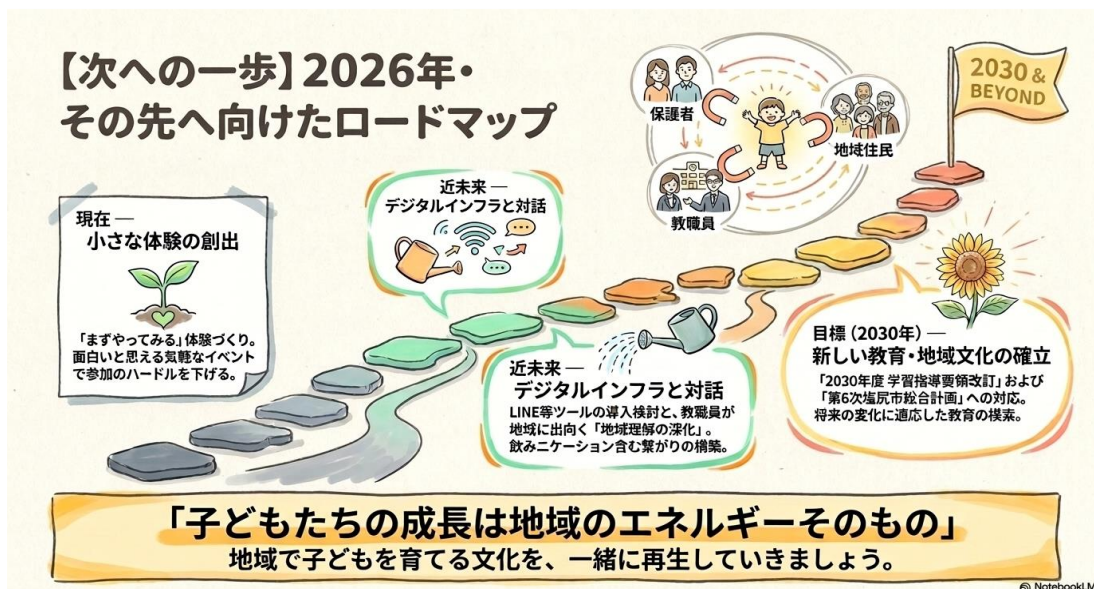
令和8年5月②

## ◎第1回CS連絡協議会

**「対話」「参画」「発信」で  
元気な学運協を積み上げよう！**

5月12日（火）に第1回コミュニティ・スクール（CS）連絡協議会が行われました。この会は、塩尻市のコミュニティ・スクールについて、横のつながりを持ちながら1年間をめあてや成果について語り合う会です。今回は教育委員の皆さんも参加されながら、学校運営協議会会長、地域協議会会長、学校長、CSコーディネーター、事務局の様々な立場から、今年度のテーマについて熟議（グループでの対話）を行いました。どのグループも自校の取組を元に、自分事として熱く語り合う姿が見られました。参加者の皆さんの思いを心強く感じながら、できることから次の一歩を進めていきたいと思えます。出していただいた感想をまとめてみました。今後の活動の参考にしてください。





### 1 現状の共通課題

- **担い手不足と高齢化:** ボランティアの固定化や高齢化が進み、次世代への継承が課題となっている。じっくり取り組むことの大切さ、楽しさもある。
- **保護者参加のハードル:** PTA 活動の縮小や意識の変化により、保護者の関わりが大事になってきている。地域の大人の仲間として一緒にできる事を考えたい。
- **情報発信の不足:** 学校やCSの素晴らしい活動が、保護者や地域住民に十分に届いていない。様々な発信方法を考える必要あり。
- **主体性の醸成:** 制度の中で「やらされている」という受け身的な感覚を、いかに「自分事」へと転換するかが問われている。楽しむ仲間を増やしたい！
- **連携ツールの未整備:** 連絡が紙ベースであり、情報共有の効率性や継続性が必要。

### 2 前進のための「鍵」と「工夫」

- **参加のハードルを下げる:** 「単発・短時間」や「参加を楽しめそうな活動」の工夫をして、できる人ができる時に参加するような柔軟なボランティア形態をつくる。
- **デジタルの活用:** LINE やアプリ等の ICT ツールを活用し、情報をスムーズに共有・発信する仕組みづくり。
- **体験の場の創出:** 大人も子どもも「まずやってみる」体験を通じて楽しさを実感していくことで、次の一步につなげる。うまくいかなければやりなおせばいい！
- **ファシリテーションと繋がり:** 地域と学校をつなぐコーディネーターの活用と、対話（飲みニケーションも含む）を通じたつながりの積み重ねがさらなる活力を生む。
- **「子ども」を真ん中に:** 地域と学校、保護者が子どもを中心に置くことで、自然と大人が集まり、地域コミュニティそのものが活性化する。

### 3 今後の方向性と重要視すべき視点

- **コミュニティの再構築:** CS 活動は単なる学校支援にとどまらず、少子化社会において「地域で子どもを育てる文化・つながり」を維持・再生する重要な役割を担っている。
- **地域理解の深化:** 教職員自身も地域に積極的に出向き、実情を知ることで、真に必要なとされるサポートが見えてくる。
- **制度変化への対応:** 2030 年度の学習指導要領改訂や第 6 次塩尻市総合計画を見据え、将来の社会の変化に対応した新しい教育のあり方を、CS を通じて地域とともに考えていく必要がある。